

第9回車座会議 概要

日時	令和6年9月18日（水） 17時30分～19時30分
場所	市役所本庁舎 601会議室
出席者	【主催側】 市：石川部長、伊藤次長、前田企業立地・次世代産業推進課長 久田商工振興課長、五十君、長田、飯嶋 【説明者】 ・トラック協会 小山氏 ・株式会社バイオス小牧 小寺氏 【参加者】 市（3名）：商工振興課 岩下、矢葺、企業立地・次世代産業推進課 早瀬 小牧商工会議所（2名）：長谷川氏、杉山氏 事業者（11名）：別紙名簿参考

各グループの意見

（テーマ1 現状）

【A班】

- ・課題としては、2024年問題で労働時間が短くなるのだが、荷主と送り先の事業者の間で、朝一に物を持って来てほしいと言われた時、事業者は運送業者には言うが、荷主が送り先から指定されている時間を、運送業者が関与できないところにある。
- ・2024年問題は一般の消費者からすると実感がない。例えば、指定の時間どおりに配送がされないという事象が起きない限り、そういう意識にならないのが実情である。
- ・その他の課題としては、人材不足・高齢化である。
- ・この部分も仮に、運送業者が魅力的な職場になったとしても、免許の問題などいろんな問題があり、人材不足は解決しない。
- ・解決策としては、すべての事業者、荷主、送り先の事業者、消費者も含めて、意識改革が必要だと考える。
- ・このままの状態が続けば、生産性の向上とは逆行してしまう可能性が高い。

【B班】

- ・運送業界は、大変な状況にある。価格も上げられない、そういった状況とのことである。
- ・そういった状況の中、人手不足という問題がある。人手がいらないから、今のメンバーだけでやっていくとしても、年を経ると、今のメンバーも

歳を重ね、会社も疲弊していくので、若い方なども採用したいと考えているが、現実的には、採用は難しい状況とのことである。

- ・ 対策として、DXを推進しているという事例があった。従来、1日かかっていた作業を、DX化したことで約1時間に短縮することができ、残りの時間を違うことに使えるようになり、社員の人たちのモチベーションも上がったとのことである。新しい人を採用するというよりも、今いる社員の人たちが誰も辞めたいと思わないような取組を進めているという話があった。

【C班】

- ・ 課題としては、人材の確保という点である。
- ・ 給料の問題もあるのだが、給与に関しては2024年問題が起こる以前からずっと取り組んでいることでもある。
- ・ 免許の問題で、トラック運転手は、どんな人でもなれない。いわゆる仕事になってないというのが一番大きな問題である。
- ・ まず、免許を取ってもらう必要がある。
- ・ 求人も管理ベースであるが、ほとんど来ない。
- ・ 若い人が見ないので、ネットの方に手広くやっていくが、次の課題として、面接に来ないということもある。
- ・ 対策としては、求人に関心を入れていきたい。特にネット求人。
- ・ 免許の支援などを入れていくことにより、若い人が目を向けてくれるような、求人募集を行いたい。

（テーマ2 これから）

【C班】

- ・ 自分たちで取り組めることに関しては、人材育成、資格支援事業は、粘り強くやっていく必要がある。
- ・ 市にお願いしたいことは、若い人（男・女問わず）を採用しているのだが、免許取得については、補助金あるといい、
- ・ 残業代とかあるんですけども、このあたりは交渉して、辞めてどうぞということではないと思っている。

【C班の市への要望】

- ・ 免許取得に関する補助、未経験者の確保、面接会の開催。

【B班】

- ・自分たちで取り組むことができることに関しては、人材の確保と収入確保に努めることだと考えている。
- ・また、最近の社員の人たちは、収入よりも福利厚生の実感などを気にされる方が増えてきているので、親の介護や自分の趣味の実感など、そういった時間がもっとほしいという人たちにも対応できるように、時短勤務などにも取り組んでいく必要があると考えている。
- ・なお、配送に関しては、できる結果として、成功例などがあるので、みなさんの協力ありきの話になるが、そういったできる範囲でやれることはやっていきたいと考えている。
- ・市にお願いしたいことは、こういった会議を、運送業者、行政の方々というよりも、メーカー、荷主、工場などが主体となる場で、そこに行政も間に入っていただき、そこに運送業者が加わって、一緒に意見を出し合うような、そういった場をぜひ考えていただきたい。

【B班の市への要望】

- ・メーカー、荷主などが主体となる場に、運送業者が加わり、行政が間に入り、一緒に意見を出し合うような場、意見交換できる場の提供。

【A班】

- ・自分たちで取り組めることに関しては、交渉を続けていくということである。先ほどのグループと同じ話かもしれませんが、それができる社会の雰囲気になって欲しいと考える。
- ・デジタル化で事務作業を減らす必要があると考える。人件費をそちらに向けるのか或いは多角的な事業を他にスタートさせるのか検討するためにもある程度、自治体との関係が必要である。
- ・市にお願いしたいことは、やはり免許取得の費用などの補助制度があるとよいのではないかと考える。

【A班の市への要望】

- ・免許取得、資格支援などの補助金の有効性については認識しているが、市の補助は大方、その効果を求めてくる。トラック業界は、時間をかけて手厚く支援をし、一人前に育てたとしても離職する率は高い。トラック業界は、そのリスクを承知のうえ、人材確保のために動いている。
- ・市の補助を作る場合においても、効果は求めない。補助の申請、提出の段階に人材育成をしていけば可とするような制度であれば、有益。